

# 令和元年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－6号)

農林総合研究センター  
令和元年6月28日調査

## 気象経過

<平年対比>

### 【平均気温】

- ・6月第4半旬は、金沢は低く、輪島はかなり低い（平年差：金沢-1.0℃、輪島-1.3℃）
- ・6月第5半旬は、金沢、輪島ともに並（平年差：金沢+0℃、輪島+0.2℃）

### 【日照時間】

- ・6月第4半旬は、金沢はかなり多く、輪島は並（平年比：金沢143%、輪島103%）
- ・6月第5半旬は、金沢、輪島ともにかなり多い（平年比：金沢169%、輪島124%）

### 【降水量】

- ・6月第4半旬は、金沢はかなり少なく、輪島はかなり多い（平年比：金沢47%、輪島189%）
- ・6月第5半旬は、金沢は並、輪島はかなり少ない（平年比：金沢77%、輪島4%）

### 【1ヶ月予報】

6月27日発表の1か月予報（6月29日～7月28日）では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並の確率40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

## 生育概況等

### 【本田の生育】

#### 1. 出穂期

ゆめみづほの出穂期は、加賀地域で7月15～19日頃と近年より3日程度早く、能登地域（羽咋～中能登）は7月20日頃と近年に比べ2日程度早くなると見込まれる。また、能登地域（奥能登～珠洲）の能登ひかりの出穂期は、7月22～25日頃と近年及び前年並と見込まれる。

#### 2. 葉齢

コシヒカリは、平年比+0.2葉（加賀地域+0.2葉、能登地域+0.3葉）となっている。コシヒカリの葉齢展開からみた生育の遅速は、平年に比べ1～2日程度早いと見込まれる。

ひやくまん穀は、近年比+0.5葉（加賀地域-0.2葉、能登地域+1.1葉）となっており、葉齢展開からみた生育の遅速は、加賀地域では1日程度近年より遅く、能登地域では6～7日程度早いと見込まれる。

#### 3. 草丈

コシヒカリは平年比97%（加賀地域96%、能登地域99%）といずれの地域も平年並。

ゆめみづほは近年比101%（加賀地域100%、能登地域103%）といずれの地域も近年並。

ひやくまん穀は近年比107%（加賀地域107%、能登地域107%）といずれの地域も近年に比べやや長い。

#### 4. m<sup>2</sup>当たり茎数

コシヒカリは、平年比104%（加賀地域103%、能登地域106%）と加賀地域、能登地域とも平年並。

ゆめみづほは近年比107%（加賀地域111%、能登地域100%）と加賀地域で近年よりやや多く、能登地域で近年並。

ひやくまん穀については、近年比115%（加賀地域：98%、能登地域：137%）と加賀地域で近年並、能登地域で近年に比べ多くなっている。

#### 5. 葉色

コシヒカリは平年並の4.1（葉色板値）となっている。

ひやくまん穀は、近年より+0.1濃い4.6（葉色板値）となっている。

### ㎡当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	543本	（平年比 104%	前年比 102%）	30.2	本/株
	加賀	537本	（平年比 103%	前年比 103%）	29.5	本/株
	能登	552本	（平年比 106%	前年比 100%）	31.3	本/株
ゆめみづほ	県平均	601本	（近年比 107%	前年比 102%）	33.7	本/株
	加賀	627本	（近年比 111%	前年比 106%）	35.0	本/株
	能登	551本	（近年比 100%	前年比 93%）	31.2	本/株
ひやくまん穀	県平均	562本	（近年比 115%	前年比 106%）	28.7	本/株
	加賀	544本	（近年比 98%	前年比 102%）	28.4	本/株
	能登	581本	（近年比 137%	前年比 110%）	29.0	本/株

### 【病害虫の発生状況】

- 1 斑点米カメムシ類の発生は多と予想されている。  
[病害虫発生予報第3号（令和元年6月13日付）参照]
- 2 セジロウンカの初飛来が6月25日に県内2カ所で確認されている。（平年6月27日）  
[病害虫情報-3（令和元年6月26日付）参照]

### 当面の対策

1. 早生の1回目の穂肥は、適期の幼穂長（ゆめみづほ：1～2mm出穂23日前、能登ひかり：2～3mm出穂20日前）を確認し、遅れずに施用する。  
ゆめみづほの穂肥については、葉色が濃いほ場（葉色板値4以上）や茎数が650本/㎡を超えているほ場では時期は遅らせず施肥量を減らして施用し、2回目は出穂7～10日前に基準量を施用する。
2. 早生品種の穂肥施用後は根の機能を保持し、登熟を向上させるため、間断通水により土壌の飽水状態を保つ。

3. コシヒカリとひやくまん穀は中干しを継続する。

#### 【コシヒカリ】

**出穂の早い加賀地域で下位節間の伸長、全県的には弱勢分けつの発生が懸念されることから、過繁茂及び籾数過剰を防止し、登熟能力の高い稲体に誘導するため、7月5日頃まで中干しを継続する。**

また、5月20日以降に移植されたほ場においては、7月第3半旬まで中干しを継続する。

#### 【ひやくまん穀】

ひやくまん穀の理想生育相と比較すると、加賀地域は概ね理想的、能登地域はやや多くなっている。**過繁茂及び籾数過剰を防止し、登熟能力の高い稲体に誘導するため、7月15日頃まで中干しを継続する。**

**既に十分な茎数を確保しており、今後発生する弱性分けつを確実に淘汰する必要がある。能登地域では前回調査から茎数がかなり増加しており、早急な茎数抑制が必要である。**

分施のひやくまん穀の場合、基肥由来のアンモニア態窒素は切れているので、葉色版で葉色4.0を下回る場合は、7月5日頃までに窒素成分で1kg/10aを追肥する。全量基肥一発肥料の場合は、肥効が継続しているため窒素成分の中間追肥は不要である。

4. **紋枯病の常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では発生に注意し、防除を徹底**する。  
薬剤によって散布適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。

5. いもち病の箱施薬が行われていないほ場、いもち病の常発地及び葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。  
なお、ひやくまん穀の防除適期はコシヒカリと異なることに留意し、防除を徹底する

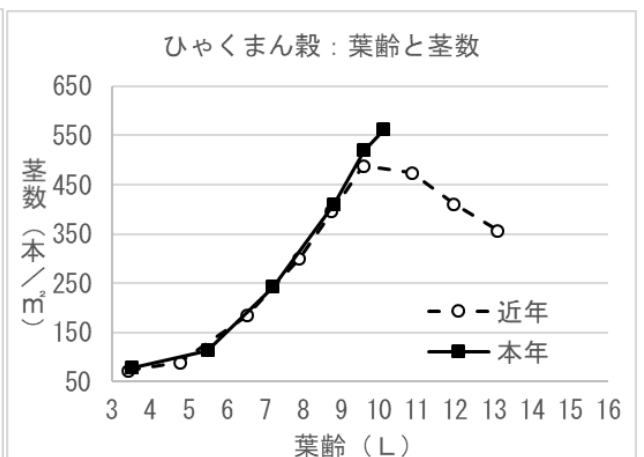
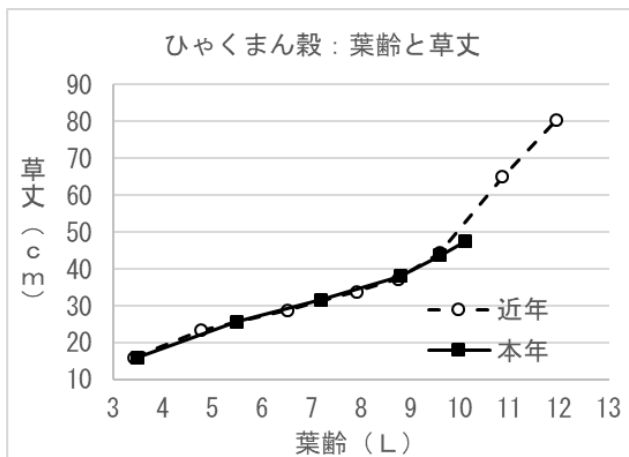
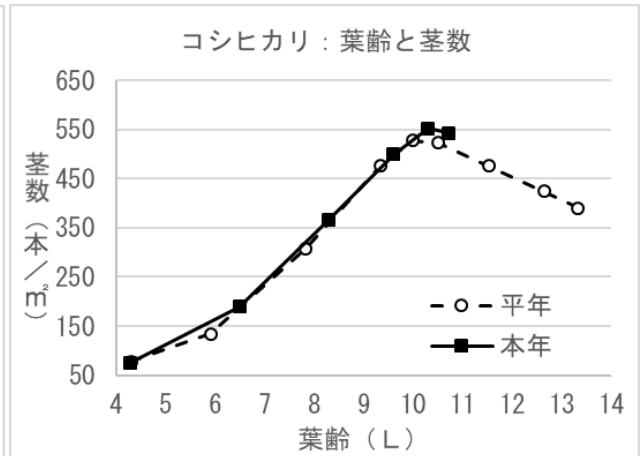
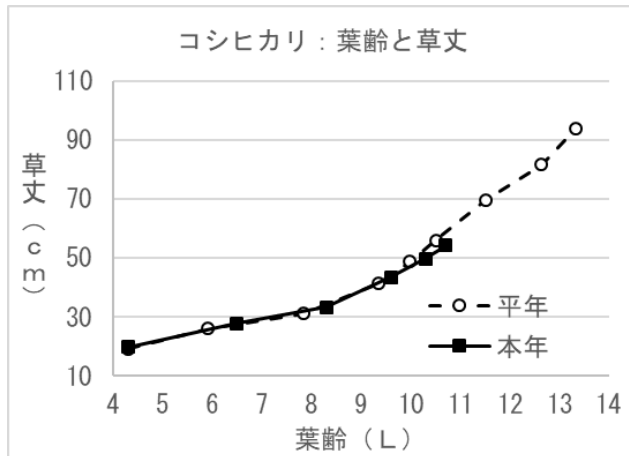
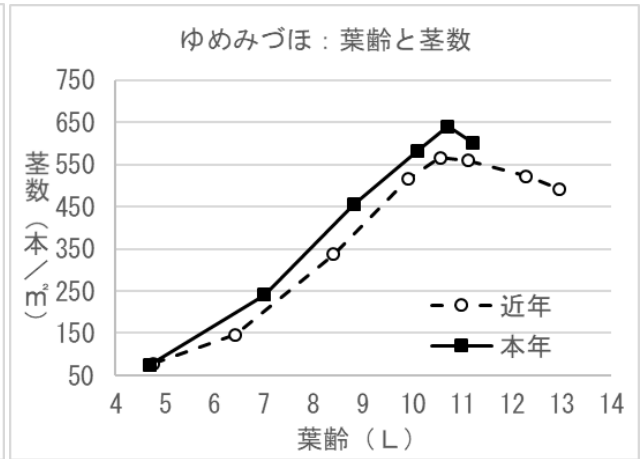
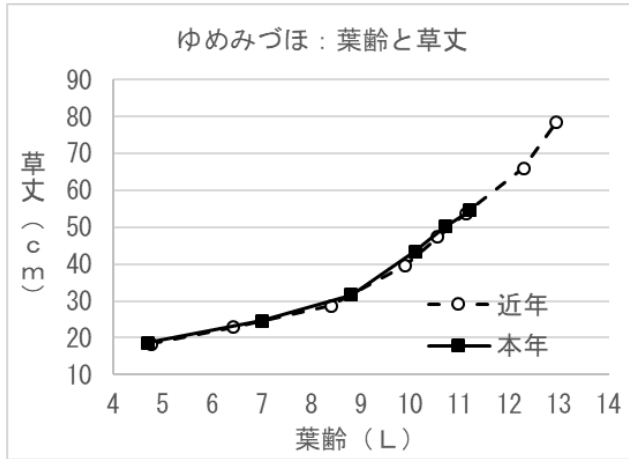
6. 斑点米カメムシ類の発生が多くなっているため、生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草は、集落など地域全体で一斉に実施すると効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

なお、ひやくまん穀の防除適期はコシヒカリと異なることに留意し、防除を徹底する。

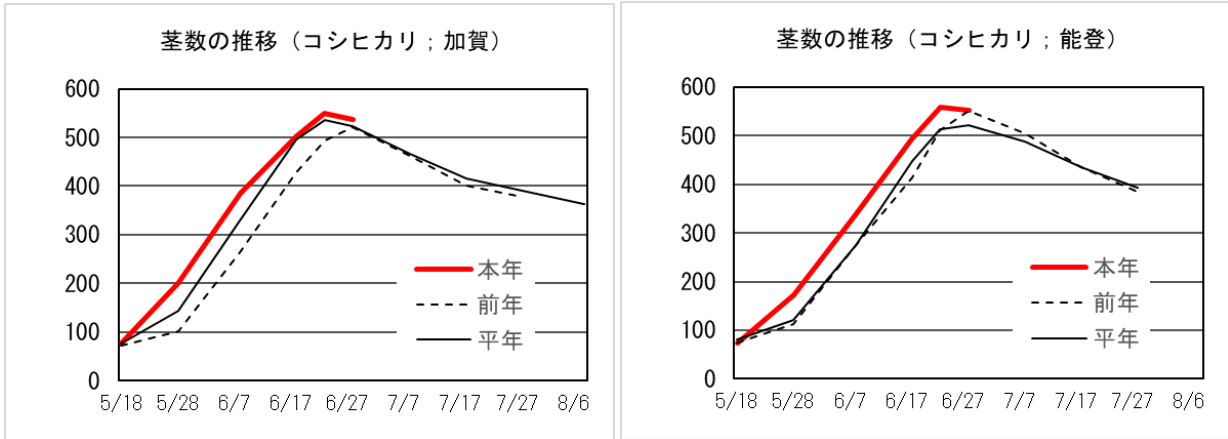
7. 大雨により冠・浸水したほ場では、**できるだけ早くほ場の排水に努めるとともに、冠水したほ場では病害の発生が懸念されるため、排水後もほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。**

<参考：草丈の伸長および茎数の増加傾向>

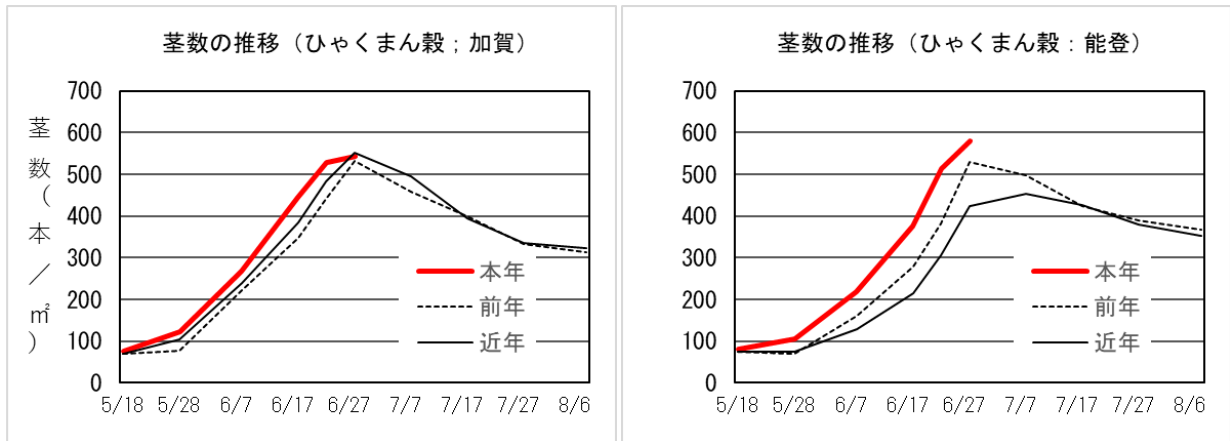
- ・葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年と比較すると、  
草丈については、ゆめみづほは近年並、コシヒカリは平年に比べやや短め、ひやくまん穀は近年よりやや短くなっている。  
茎数については、ゆめみづほでは近年よりやや多く、コシヒカリでは平年よりやや多く、ひやくまん穀では近年に比べ多くなっている。



- 調査日を基にコシヒカリの茎数増加を平年及び前年と比較すると、加賀地域では平年及び前年並、能登地域では平年よりやや多く前年並となっている。  
また、最高分げつ期については、加賀地域、能登地域とも6月23～24日となり、加賀地域では平年並で前年より早くなり、能登地域では平年及び前年より早くなった。

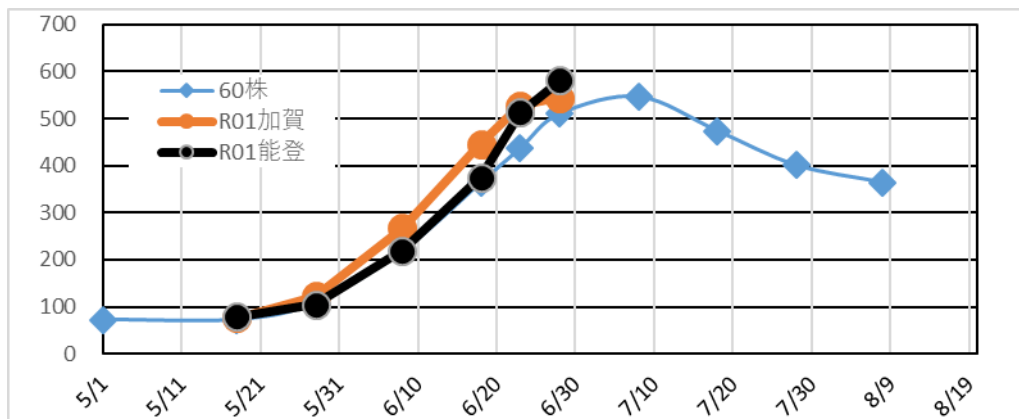


- 調査日を基にひやくまん穀の茎数増加を近年及び前年と比較すると、加賀地域では平年及び前年並、能登地域では近年より多く、前年よりやや多くとなっている。

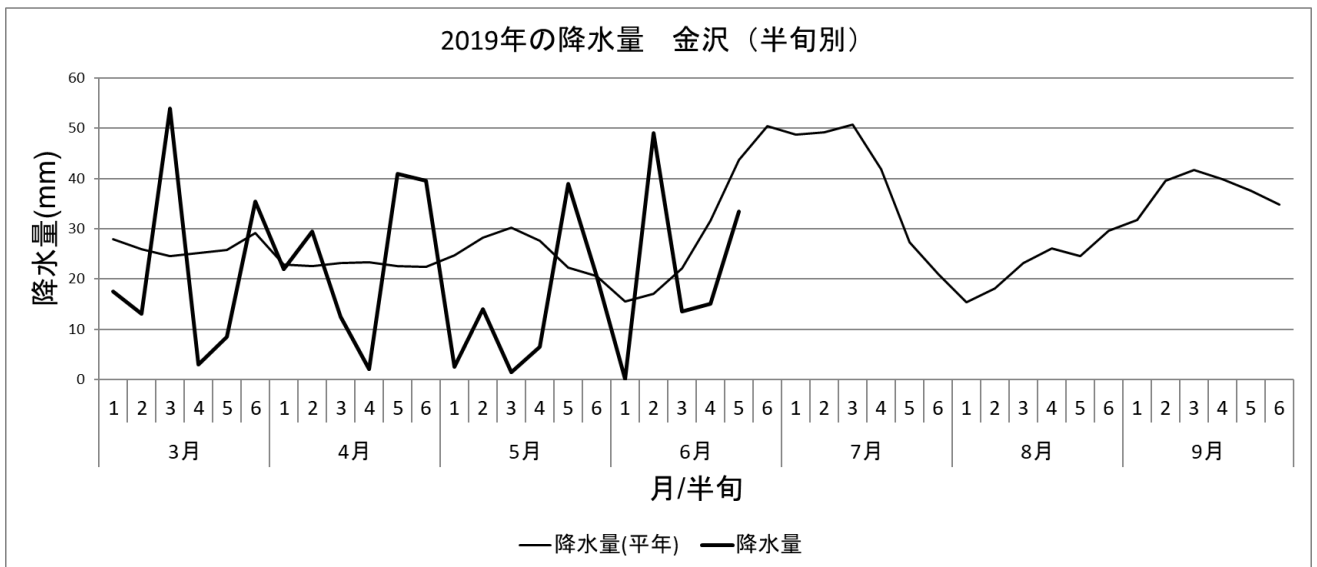
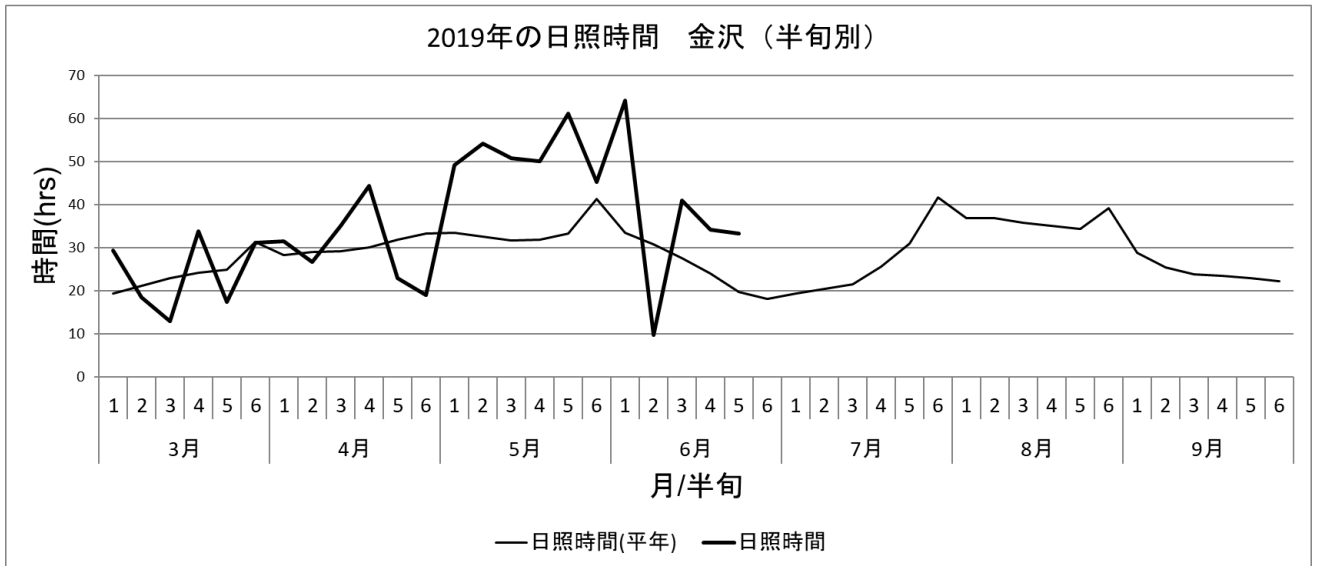
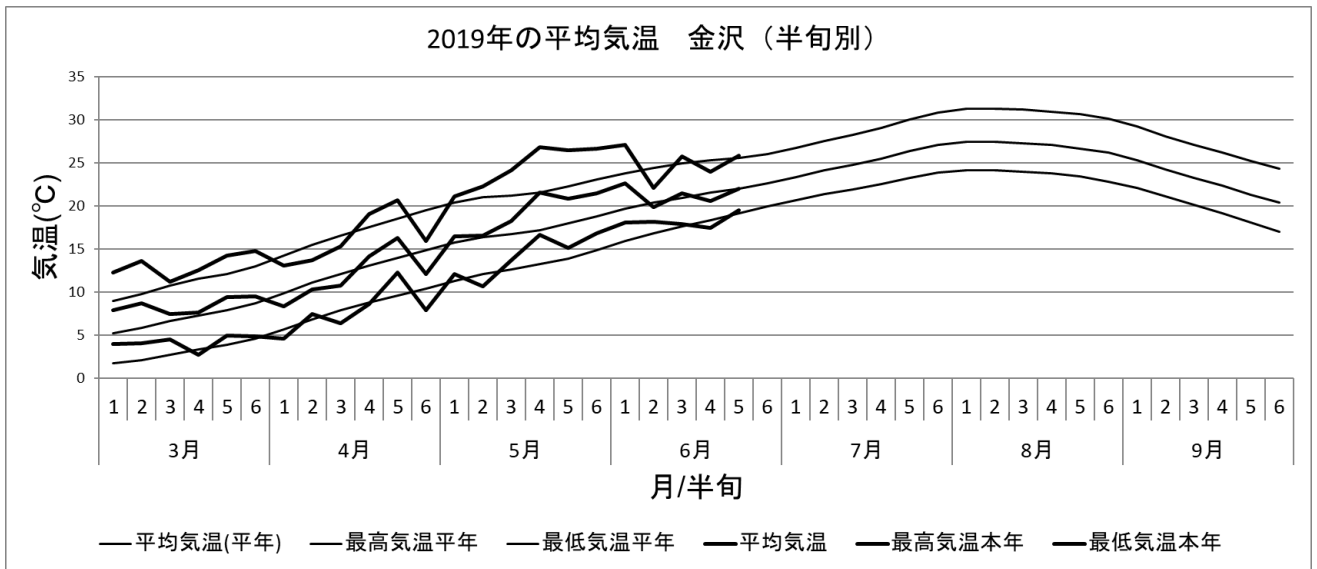


- ひやくまん穀の理想生育相と比較すると、加賀地域は概ね理想的、能登地域はやや多くなっている。加賀地域、能登地域のいずれも目標穂数360本/m<sup>2</sup>は確保できる見込みである。

ひやくまん穀の理想生育相（60株）との比較



# 気象経過イメージ（金沢気象台）



# 気象経過イメージ（金沢気象台）

